

Amity

アミティーナーシング

Vol.121

NurSing

発行／公益社団法人 北海道看護協会道南南支部

編集責任者／寺田恵子

CONTENTS

- 道南南支部長あいさつ
- 看護研究学会プログラム
- 研修会報告
- 看護の日イベントのお知らせ
- 特集「緩和ケアにおける補完療法の導入」
- 推薦委員会からのお知らせ

2026年1月発行

「緩和ケアにおける 補完療法の導入」

函館おしま病院 補完療法セラピスト ウッド恭子

日本国内でも先駆的な試みとして緩和ケアホスピスに補完療法セラピーを導入して半年が過ぎました。アロマセラピーマッサージや、英国のホスピスで多く取り入れられているHEARTS（ハーツ）プロセスというタッチケアセラピーを行うセラピストとして看護チームからの協力を頂きながら、終末期を迎える患者さんやそのご家族ができる限り穏やかな最後の時間を過ごせるよう、患者さんのみならずご家族にセラピーを通して寄り添うという仕事をさせていただいています。

病棟の看護チームより紹介が入った後、担当医師の確認、その他いくつかのアセスメントを経て、患者さんに入るといふ流れを看護師の皆さんと連携しながら行っています。患者さんのその日の症状の変化や、突発的な注意事項など、日々セラピーを行うのに必要な情報を、医療チームからの生きた情報という形で確認出来ることはとても重要です。各セラピーそのものは、だいたい30分程度で、精油を用いたアロマセラピーマッサージを手足・背中・腹部など、その日の体調やご希望に合わせて行います。また、英国最大のがんセンターの補完療法チームにより実施されてきたハーツプロセスというタッチケアを、衣類や寝具の上からも受けていただいています。

終末期の患者さんにとって、時にオイルを塗布する穏やかなマッサージですら負担になるとき、このハーツプロセスによる、ゆっくりとした穏やかなタッチケアはとても有用です。また、アロマセラピーとハーツを融合してセラピーを行う場合もあります。

これらはすべて患者さん個々の状態に合わせた、患者さん主体のセラピーです。

そしてその触れるケア、植物の力を借りたアロマセラピーを介して、ひとりひとりの尊厳が尊重されながら、最後の時を穏やかに迎えられるよう、心と身体の両方に寄り添い続ける日々です。



▲セラピールームの様子



▲患者さんへの下肢アロマセラピーマッサージの様子



▲HEARTSによるヘッドマッサージ



▲精油の用意の写真（イメージ）